

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 12 月 8 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100674
法人名	医療法人 裕智会
事業所名	グループホームアルプスの風 4階 (コスモス)
所在地	鹿児島市荒田一丁目11番1号 (電話) 099-296-8008
自己評価作成日	平成29年12月 8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

○入居者が高齢になるに伴って、認知症ケアだけでなく、慢性疾患などへの対応も必要となってきた。介護職員がグループホームで必要な医療の基本的な知識を学び対応している。

○認知症ケアについて月1回の職員カンファの時に学んでいる。

○車椅子の入居者も増え、全員で外出する事が難しくなってきた。年間を通じて、全員での外出は2回だけであったが、外出時にご家族にも協力をいただき、家族とともに外出する事ができた。また、5階の広いスペースを使って外出と見立てたレクリエーションなど、活動の機会を作り支援している。

○法人の理事長によるリハビリ体操、音楽専門の方による『音を楽しむ会』ボランティアの方による、太極拳やアコーディオン、壁絵づくり、秋祭り、敬老会、地域の文化祭、買い物リハビリ、クリスマス会、忘年会、さらには認知症カフェ：ある・あるカフェなど様々な行事で、入居者の生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に『あなたの家族や地域との繋がりを大切に』とうたっており、理念をスタッフルームや玄関に掲示している。職員間で共有し、理念に対して理解を深めケアに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の来訪や校区の中学生の職場体験の受け入れや、校区の文化祭への出展などを行い、地域との交流を図っている。また、秋祭り等の行事の参加も呼びかけている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症カフェ（毎月1回）や運営推進会議（2ヶ月に1回）を開き、地域の方々に参加して頂いている。その際、認知症と、その支援方法など伝え、認知症への理解を深める機会としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。入居者・家族・地域住民・民生委員・地域包括支援センター職員、消防署職員に参加呼びかけている。入居者の生活状況を報告し、参加者全員で意見交換を行い、会議の内容を職員間で共有して日頃のケアに繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所より、相談や各種手続き等がある場合は状況に応じて随時、問い合わせをし、助言や協力を受けている。今後も市の担当者と連携を図りながら協力関係の構築に努めていく。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を定期的に実施している。研修には職員全員参加して、理解を深めると共に入居者が自由に安全して生活できるように心掛けている。今後も、身体拘束廃止に努めていく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を定期的実施。研修には、職員全員参加して理解を深めて、虐待が入居者の心身に及ぼす状況を熟知して、管理者及び職員全員がその防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護についての研修を行っている。研修を通し理解を深めて、今後も状況に応じて関係機関と連携を図り、制度を活用していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約終了時には契約書の読み合わせを行い、入居者及び家族が疑問点など随時質問できるようにしている。解約や改正が必要になった際もその都度説明し理解して貰える様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	フロアの入り口にご意見箱を設置している。運営推進会議議事録など自由に観覧できるようにしている。また家族会でも懇談会で意見交換し、話した事を家族会会長より管理者へ報告し、その後の運営に反映するように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員カンファレンスを設け、日頃から管理者を含め、職員間の交流を持ち、意見交換や情報共有に努め、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の目標、業務に関する姿勢や勤務状況を把握したり、個人々人を理解する為に目標面接を行い、客観的に適切な評価を行っている。それに伴い、職員がやりがいを持って働けるように職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の内部研修の参加機会と、全職員の外部研修参加に向けた研修案内の開示などにより、積極的に働きかけている。今後も研修参加の意欲向上に繋がるように働き掛けていく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修による同業者との交流の機会や実習受け入れによる交流の機会もある。今後も同業者との交流の機会を積極的に持ちながら、サービスの向上に取り組んでいく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族との事前面接で得た情報を基に、本人の要望や困り事などを聞き、安心できる様に支援し関係構築に努めている。サービス開始時にはその人の「思い」を反映したケアプランを作成し、安心の確保に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接を行い、利用開始時に要望や困り事、不安な事などを聞いている。またこれまでの介護に対する労いや介護負担軽減、要望を理解し、信頼関係を深めていくように心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス開始時に本人の状態を把握する。また、本人と家族の要望等も聞き、本人にとってより良いサポートができるよう努める。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人ができる事はしてもらい、必要な部分は、適切に介助をする等の支援を行っている。一緒に生活をする上での関係作りにも努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なカンファレンスを行い、本人・家族の要望、最近の本人の状態等を話し合っている。本人がより良い生活を送れるよう、家族と職員の関係性も大事にし、連携を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活の背景を把握し、本人の好まれることや他者(馴染みの人等)との交流が継続して持てるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、様々なレクリエーションを行ったり、家事活動に参加できる機会を作り、入居者同士で話しをするなどの交流が図れるようにし、より良い関係が築いていけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの使用が終了していても、本人や家族の方との関係を大切にしている。今後も必要であれば相談を受けたりする等の対応をしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意向を把握する事を大事にし、不安に思っている事などがあれば、その不安を解消できるよう職員が支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活や好まれる事・趣味、嗜好を把握した上で、それを日常生活に取り入れていけるようにしている。また、本人の尊厳を大事に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前は、日誌や記録等を読み、申し送りを受ける事で情報収集している。職員間の情報共有にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当会議を行い入居者・家族・職員とで話し合い、また担当職員のモニタリングと他の職員の意見も参考にして、計画担当作成者が介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャートニング様式で日々の介護経過を記録している。日勤・夜勤の引継ぎで申し送りを行い、入居者の状態や実施したケア、入居者の思いなど記録からも読み取り、情報の共有を行いケアに生かしている。また、ケアプランの見直しにも活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時の情報提供や、日常会話や様子から希望や思いの変化を察知して、入居者のニーズに応じたケアが出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各月の運営推進会議、毎月のあるあるカフェを通じて、地域の方々からの意見を取り入れたり、季節の行事を通して地域との交流の機会を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期受診の他に、体調の悪い時等すぐに主治医と連携を図り、受診をして適切な医療が受けられる体制ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の定期的な健康チェックを通し、入居者の情報共有や意見交換を行い、適切な受診や看護が受けられるよう連携して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院する際は、安心して治療が受けられるようにサマリーによる詳しい情報提供を行っている。同法人の協力医療機関もあり、主治医を交えて退院に向けた情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に医療連携・重度化、終末期に向けての指針を示して説明している。また、カンファレンスや家族会でも状態の報告や事業所でできる事を説明し、家族の協力も得られるようにしている。職員・家族・他職種と連携し、チームとしてケアに取り組むようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	赤十字の方を講師に呼び、救急救命の講習を定期的実施している。応急手当などの実技指導も受け、緊急時の対応を学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いの下、避難訓練を行っている。昼間・夜間想定訓練も実施しており、訓練時は、近隣住民の方々の協力も得て行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者一人ひとり、個人に応じた声かけや状況に応じたケアを行っている。声かけは、周りにも配慮しながらプライバシーを損なわないよう努めている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者一人ひとりとの関わりを大切にして、入居者の思いや要望などを汲み取れるよう職員全体で意識し、努めている。可能な限り生活の中の選択や自己決定をできるように支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりが、自分のペースで自己決定しながら生活ができるようパーソンセンタード・ケアを大事にし、支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>その人が好む整容・身だしなみ・服装で過ごし、その人らしくおしゃれを楽しみながら、清潔に気持ちよく暮らせるよう支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と職員と一緒に食事を摂り、おしゃべりをするなど楽しい雰囲気の中で美味しく食事を摂って貰えるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養バランスや、入居者個々の嚥下の状態を考えた調理をしている。食事量、水分量も観察をして一日に必要な栄養や水分が摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の重要性を職員が理解し、毎食後に口腔ケアの声かけや支援を行い、口腔内の清潔努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時は、羞恥心やプライドに配慮した声かけや支援を行っている。トイレでの排泄が継続できるように支援したり、個々の排泄パターンに応じた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の毎日の排便状態を把握し、便秘が及ぼす心身への影響を十分に理解して、個々の状態に応じた適切な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個人の清潔保持の為、入浴は週3回行っている。入浴時は、入居者の状況に応じて声かけし、ゆったりと入れるような環境作りにも努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の生活リズムを尊重し、夜間の居室の環境の調整も行い、快適な睡眠が取れるよう支援している。安心して眠れるような声かけや関わりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に対して主治医や薬剤師から用法・用量・副作用などの管理指導を受けている。入居者に症状や変化がある場合、主治医に連絡、指示を受け対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に合わせた自立支援をし、役割りを活かして生活出来る環境作りを心掛けている。個々の趣味や得意分野に合わせたレクリエーション活動等、気分転換の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外出の行事など、入居者の希望を聞きながら実施している。家族にも外出や外泊の協力を頂ける様、働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者がお金を持つことで安心してもらえるよう努めている。希望があれば職員と買い物に行けるよう、小口現金としてお金を預かり支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>要望がある際には、自由に電話連絡や手紙のやり取りができるよう、家族にも協力を頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>物的環境、人的環境を整え入居者が安心して心地よく過ごせるよう支援している。置物や壁画など、季節を感じられるものを職員と共同で作成している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>レクリエーションや行事などを通じて、入居者同士がコミュニケーションを図れるような機会を設けている。また、プライベートな時間も過ごせるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い場所になるよう、使い慣れた家具や好きな物を持参してもらっている。定期的な寝具の交換や掃除を行って、快適に過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の生活状況を観察し、できること、わかる事を見極め、必要に応じた支援を行い、自立した日常生活が送れるよう努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
		○	1 ほぼ全ての利用者が

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
		○	1 ほぼ全ての利用者が
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
		○	1 ほぼ全ての家族と
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
		○	1 ほぼ毎日のように
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
		○	1 大いに増えている
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
		○	1 ほぼ全ての職員が
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
		○	1 ほぼ全ての職員が

67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない